



子どもの貧困を考える ネットワークニュース

2021年8月号

発行: 子どもの貧困問題
大阪ネットワーク理事会
ニュースの問い合わせ
niki@osaka-jichiroren.jp

福島県産・千葉県産

『まごころ米』6170kgを届けました ～福島県農民連の呼びかけでフードバンクなどへ～

福島県農民連からの呼びかけで、子どもの貧困問題大阪ネットワークとして郵送料を負担し、府内各所で取り組まれているフードバンク・食材提供や子ども食堂へお米を届けました。

福島県は、原発事故による風評被害によって、お米ですら個人消費は少なく、飲食店等事業用の利用が大きいのが特徴でした。そこを直撃したのが「新型コロナウイルス感染拡大」対策としての、緊急事態宣言等、営業自粛要請です。多くの農家さんの倉庫に、出荷の止まった「お米」が残っていたのです。「せっかくのお米を有意義に使ってもらわないか…」との農民連の呼びかけに、多くの農家さんがお応えになって、おいしいお米を、コロナ禍で生活や食事に困っている方々へ届けることができました。

福島県のおいしいお米を大阪へ

第1弾は、2021年4月19日に、にしなり子ども食堂を拠点とする子ども食堂関西ネットワークに150kgと大阪自治労連に50kgが届きました。

このことが、毎日新聞(4月27日夕刊)に大きく掲載され、福島農民連への取材も含め話題になりました。これらの反響もあって、第2弾は大きな数量になり配布先も拡がりました。

第2弾は、5月19日到着を目途に、西淀川フードバンク1500kg、大阪健康福祉短大90kg、大阪民医連630kg、子ども食堂関西ネットワーク630kg、民主青年同盟630kg、西淀生健会150kg、大阪自治労連690kg、合計4,320kgが届けられました。

第3弾は、にしなり子ども食堂に270kg。第4弾は、中央区フードバンクに180kg、東大阪フードバンクに200kg、民主青年同盟に200kg、にしなり子ども食堂に500kg、合計1,080kgが届きました。

千葉県からも送っていただきました

8月6日には、同趣旨のお米の提供が千葉県農民連から呼びかけがあり、いくのフードバンクに200kg、にしなり子ども食堂関西ネットワークに100kg、合計300kgを届けました。

これまで約6000kgの『いのち』のお米が、農家さんのご好意で子ども食堂やフードバンクへ、また、おおさかパルコープを通じて、ミャンマー在日青年たちに届けられています。コロナ禍

で、それぞれが大変厳しい暮らしを余儀なくされています。そんな方々へ、福島県・千葉県から『まごころ米』を届けました。

『まごころ米』東大阪フードバンク 4/24



予定の200人分が「ありがとうございました」「がんばってくださいね」のやり取りとともになくなりました。

各団体から、ラーメン、スパゲティ、缶詰、玉ねぎ、人参、ジャガイモ、福島県農民連からは150kgのお米、新婦人からは女性用品やレイア化粧品など細やかな物品の提供をいただきました。会場に設けた医療・介護・生活の各相談コーナーも数人の相談がありました。【東大阪市民の会ニュースより】

ネットワークの理事で、大阪健康福祉短期大学教員の北川さんが
福島県農民連へ宛てたお手紙と、学生さんたちのメッセージカードを紹介します

～福島農民連のみなさまへのお礼～

大阪健康福祉短期大学は、保育士、幼稚園教諭、介護福祉士を養成する小規模で家庭的な大学です。本校は「健康と社会福祉の研究とその担い手の養成をつうじて社会の民主主義の発展に寄与する」ことを教育の理念としています。

介護福祉学科は留学生が多く、1年間の日本語教育を受けたのち、本校に入学し、昼間学び、放課後は病院や老人施設等で深夜まで働き、土日も生活費を稼ぐため働いているのが現状です。多くの学生は仕送りもなくルームシェアしながら自炊生活をしています。

「学校と仕事の生活でどんな時が楽しいの」との質問に、「学校に来てこうしてみんなと話ができるときが一番楽しい」と答えてくれます。

留学生だけでなく地方から出てきた学生はコロナ禍の中でアルバイトも減少し、生活に困窮しながらも、親の負担を考え生活費を切り詰め、保育士になりたいという夢に向かって頑張っています。

農民連のみなさまが丹精込めて作ってくれたお米を大事そうに持って帰る、学生の後姿を見ると感謝の気持ちでいっぱいです。福島農民連のみなさんのご厚意は2年間という短い学生生活ですが、生涯忘れることはないと思います。

学生からのお礼のメッセージを添付させていただきます。

ありがとうございました。

大阪健康福祉短期大学 子ども福祉学科
教員 北川 拓



「コロナ禍に苦しむ人々に食料を支援する
施策を求める請願署名」のお願い

長期化するコロナ禍で、中小業者の経営危機や労働者の解雇など収入が減り「1日1食」に切り詰めるなど「食べたくても食べられない」人たちが増えています。府内での食料支援やフードバンクには、職と住まいを失い、食べることもままならない人々が多数訪れ、さまざまな食料の配布が歓迎されています。

その一方で、農産物の需要が減少し、過剰在庫による価格低迷に農業従事者が苦しんでいます。米作では需要減を理由に史上最大の生産量の削減が実施されています。食べられない人々がいる一方で米を作らない、こんな矛盾はありません。

お米を送っていただいた農民連も参加する全国食健連の呼びかけている取り組みです。ぜひ団体・個人でご協力ください。

【署名は下記までお送りください】

〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-13-15 5階
大阪自治体問題研究所 気付
子どもの貧困問題大阪ネットワーク

お礼文・メッセージを受け取った福島県農民連からは「農家さんから『励みになりました』と喜びの声が寄せられています」と返事が届き、お互いの交流につながる取り組みとなっています(^^) /